

## 若手農家に魅力聞こう

県置賜総合支庁 中学で農業担い手講座



農業の魅力や挑戦し続けることの大切さを生徒たちに説く千葉陽平さん  
=米沢市・米沢五中

県置賜総合支庁は本年度から管内の中学校に40代までの若手農家を派遣し、生徒に体験談などを聞いてもらつて「農業をやりたい」との意欲を醸成する担い手育成事業に取り組む。第1回の講座が22日、米沢市の米沢五中（山口義宏校長）

で、千葉陽平さん（42）が、ゼロから農業を始めた経験を通じ、「ピンチはチャンスになる」などと全生徒225人に訴えた。

中学生は将来の仕事について現実的に考え始める年代だが、農業に対して無関心だつたり、魅力を理解できていない傾向がうかがえる。これに対し、情熱的かつスマートに農業を取り組んでいる人の考え方を聞くことで、やりがいを感じてもらおうと企画した。講師は8分の煙でゾバなどを栽培している。生徒たちへのアドバイスとして「これから

住み農業の道へ。現在は約8分の煙でゾバなどを栽培している。生徒たちへのアドバイスとして「これから夢に向かう時に必ず壁にぶつかると思う。その時は正面から向かっていってください」と語った。

校で出前授業を行う。第1回の講師を務めた千葉さんは愛媛県松山市の出身で、土木関係の仕事をしていた20年ほど前、米沢に転勤になり、そのまま移り

## Agri Teacher、米沢5中生徒に農業の魅力を語る



農業の担い手を育成するため、置賜地域で活躍する若手農業者を中学校に派遣し、農業への理解と職業として考える機会を提供する「Agri Teacher」派遣事業が平成30年度よりスタートしました。主催したのは置賜農業振興協議会(豊嶋克彦会長:置賜総合支庁産業経済部長)です。

Agri Teacher(講師)は、概ね40歳以下の農業者、又は40歳以下の農業者で構成される団体、グループで、現在、中学生に農業の魅力を伝えたいという意欲的な7個人(うち夫婦1)、4団体に委嘱されています。

6月22日、同事業初開催となる講話が米沢市立第5中学校の全校生徒225人を対象に行われ、米沢市南原地区在住の千葉陽平さんがスライドを使って農業の魅力を語りました。

千葉さんは愛媛県の出身で大阪の大学工学部で学び、ダム関係の仕事の会社に就職しましたが、すぐに山形県米沢市に派遣されました。会社を辞め放浪の旅に出たのち再び山形に戻りました。高畠町の八百屋で仕事をしていた時に、無農薬の野菜の注文を受け大変に喜ばれた経験から究極の野菜を探し求め、たどり着いたのが自然栽培でした。現在、耕作している農地は70ha所余りで、自然栽培で人参やそばを生産しています。またそば粉100%の乾麺を発売して人気商品となりました。今年4月20日にオープンした「道の駅米沢」の「かあちゃんの台所」という手作り惣菜の加工施設の代表も務めています。

千葉さんは上海にある日本人学校から招かれ講演を行ったことや、出荷するそばの実に雑草の種が混入し3日間徹夜で手選別した経験など、新規農業者としてのやりがいや失敗談も交えながら約1時間にわたり生徒たちを前に熱く楽しく語りました。

講話後、生徒たちは各クラスに移動し、千葉さんが各クラスを回って再度質問を受け、生徒たちは感想を記入して発表を行いました。

同協議会では、今年6月20日から平成31年1月31日までの期間、置賜地域にある19中学校のうち、希望する学校に講師を派遣します。

## 自然栽培 挑戦実った

若手農家が中学生に講演

米沢

自然栽培農法でソバや野菜を育てている米沢市の農業千葉陽平さん(42)が22

日、同市第五中で全校生徒約230人を前に「自然栽培から学ぶ生き方」と題して講演した。

千葉さんは松山市出身で、5年前に米沢市で就農。70ha以上の大農地を借り、肥料を使わずに自然の力だけで農作物を育てる一方、

山形県内でも珍しい十割そばの乾麺を商品化し、全国各地に顧客を持つ。

千葉さんは建設会社の

社員から農家に転身した当

時を「農機具、土地、ノウ

ハウ、人脉。何もなかつた

がやる気だけはあった」と

振り返り、十割そばの事業

が1年目は大失敗だったこ

とを説明。「でも、この失

敗があつたから次につなが

つた。ピンチをラツキーと

考えて次に進むと必ずチャ

ンスは訪れる。夢を諦めな

いで」とエールを送った。

講演会は若手農業者の経

験や知恵などを生徒らに伝

える目的で、置賜農業振興

協議会が初めて開催した派

遣事業。千葉さんら置賜地

方の7個人・4団体の農業

者が登録されており、今後



講演の後、教室を回って生徒と交流する千葉さん

開く予定。